

平成28年度 最上地区青少年育成懇談会 平成28年12月17日(土) 新庄市民プラザ

平成28年度最上地区青少年育成懇談会が、12月17日(土)新庄市民プラザにおいて開催されました。高校生30名、大人48名、総数78名の方々から参加いただきました。

今年度は、青少年育成県民会議の依頼を受けた「生徒と地域の大人の対話集会」を兼ね、「人と人とのいっつながりをつくるには？～いじめをなくそう～」をテーマに行いました。

開会行事の中で橋本会長から、「山形県では『いじめをなくそう』を重点課題として県下一斉に吉村知事を筆頭に取り組んでいる。」「自分を大切にしながら、他人も認める、そして命の尊さということ、みんなで共有し、確認してほしい」等のあいさつがありました。来賓の山尾新庄市長、岸金山町教育長からも、人と人がつながりあうこと、支えあうことの大切さをお話いただきました。

その後、4つのグループに分かれて懇談会を行い、いじめのことや人と人とのいっつながり等について話し合いました。

懇談会終了後にとった「参加しでの感想等」には、次のような声が寄せられています。



(高校生から)

・グループの人、一人一人に考えがあり、体験してきたことがあり、自分とはまた違った視点と体験もされていたので、とても勉強になりました。

・いろいろな人と「人と人のかかわり」について意見を交換することができて、すごく自分にとって、貴重な経験になった。大事なことは、SNSを使うのではなく、直接伝えることが大切だと学んだ。

(大人から)

・難しい議題にも関わらず、高校生が自分の意見を持ち、発言していることに感心した。

・参加している高校生は、自分の考えをしっかりと持ち、SNSの使い方や他者とのコミュニケーションを取ることの重要性を認識していると感心しました。

これら参加者の声を大切にして、来年度の懇談会につなげていきたいと考えています。



推進員の宝もの紹介

最上

青少年育成活動を通して思うこと

最上町青少年育成推進員 菅 秀一

私は、青少年育成推進員となり活動を始めてから早四年目となりました。最初は、どんな活動を行うのかよく分からないままのスタートでしたが、橋本会長よりあまり気をつかわず子供たちの健全育成のため、推進員みんなで協力して活動していきましょうとの言葉にほっとしたことを覚えています。

最上町では年間十回程度の夜間パトロールやコンビニ巡回、朝のあいさつ運動、列車指導などの活動を行っています。夜間パトロールの危険箇所巡回では、ほとんど子供たちの姿を見ることはありません。とても良いことではありますが逆に、一体どこで何をしているのかと考えてしまう時があります。先日開催された研修会での報告では、最上管内での補導、指導数は激減しているようですので、外での子供たちの様子は、健全に推移していると言っていいと思います。しかし昨今は、スマートフォン、インターネットなどの急激な普及にともないSNSの問題が深刻化しており、危険がいっぱいの時代になってきました。子供たちは、時代の流れにのることは上手ですが、いざ問題が発生した時の対処が苦手のように思えます。反面、親もどんな問題がありどのように対処していいのか困惑している人がとても多いと思います。親も研修会などいろんなところで勉強してがんばりましょう。

さて、子供たちは、スポ少、部活、学習に、中にはボランティアも意欲的に行っている人もいます。あいさつや身だしなみなどもきちんとできていると思いますし、行事で仕事をお願いすると最後までやり遂げてくれるし、あまり心配しなくても良いと思います。個性を伸ばし、生き生きと未来へ挑戦してほしい。そして、推進員を通して思っている宝物は、次世代を担っている輝かしい子供たちです。

舟形

宝者と呼ばれない為に

舟形町青少年育成推進員 阿部 弘明

「知らない人に挨拶されたら逃げるように教えているので、挨拶をしないようにしてほしい。」という意見があり、年配者も「挨拶しても返ってこないの、お互いやめましょう」と意見が一致し、このマンションでは挨拶禁止を告知することになったという記事を見た。舟形では家の前を雪かきしていた小学生に道を尋ねたら「知らない人の車に乗らない。」と言って歩いて案内してくれた子どもが居たことを聞いた。

この二つの事例は全く対照的ですが、現代らしい事に思える。挨拶は人としての基本だ、普通に挨拶したらいいのではと思う人が多いのかもしれませんが、今までの価値観や習慣が壊れ始めているのかもしれない。かつては地域が世間でしたが、バーチャルやネットに新しい世間が生まれ、不審者情報など情報過多になり広がるスピードも速く、デマも信ぴょう性を持つてくる。

「大人が変われば、子どもも変わる」といった標語がありますが、子供はいくらでも変わりますが、大人が変わる事はないように思う。もう少し柔軟性を持ち、変わっていく時代や子どもを応援していきたい。宝者と呼ばれない為に。



(中学生ボランティアセミナーに参加した生徒たち)

編集後記

今年度の青少年育成懇談会では、「人と人とのいっつながりが幸福な人生につながる」というハーバード大学の研究結果を紹介させていただきました。最上は、人とのつながりや支え合いを大切にしてきた地域です。ややもすると人とのつながりが薄くなったり、自分さえよければという価値観が出やすい昨今、最上の良さが続いていくことを願っています。